

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

# 東員町教育委員会

## 【調査の目的】

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 【調査の概要】

○実施校数 ○実施児童生徒数

小学校（6校）・6年生：218人 中学校（2校）・3年生：207人

○学力に関する調査 ○学習や生活の状況・学校の取組に関する調査

国語・算数／数学 児童／生徒アンケート

## 【調査結果の取扱い】

○本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないように各教科別に各領域の正答率をレーダーチャートで記載しています。

○調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

## ○小学校

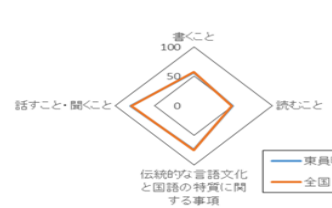
### 【全体的な傾向と課題について】

4領域ともに全国とほぼ同じ正答率である。「書くこと」の“目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように詳しく書く問題”において正答率がやや低く、課題が見られる。

### ★指導のポイント★

- ・学習課題に応じて、調べて分かったことを簡単にまとめ整理したり、自分の考えの理由として適切な事柄を選んだりしながら、自分の考えを明確にして書く学習。
- ・解答する際の条件（問題で明記されている）の意図を理解して書く学習

国語  
小学校



## ○中学校

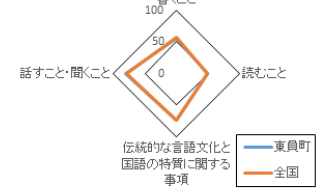
### 【全体的な傾向と課題について】

4領域ともに全国とほぼ同じ正答率である。記述式の問題において、正答率が全国を上回っており、説明する学習の成果が表れている。一方で、問題で示された条件を満たす選択肢を選び問いでは、2つのうち1つしか満たさない解答を選択した割合が多くなった。

### ★指導のポイント★

- ・解答する際の条件（問題で明記されている）の意図を理解して書く学習

国語  
中学校



# 学力調査の検証にかかる東員町の教育努力目標

## 【確かな学力】

○小学校：学んだこと（基礎基本）を生かしながら、仲間とともに新たな課題を乗り越える力を育みます。

- ・対話力や活用力を生かしながら、課題を克服できる力を育みます。

○中学校：・目標に向かって、計画的・継続的に学習できる力を育みます。

## 【豊かな心】

○小学校：・仲間とともに学び合うことに喜び感じられる心を育みます。

- ・困っている子に気づき、相手の立場に立ち、考えられる心を育みます。

○中学校：・自分の将来や生き方について考えられる力を育みます。

- ・社会の発展に貢献しようとする心や力を育みます。

## 【健やかな体】

○小学校：・規則正しい生活習慣と、進んで運動したり外遊びをしたりする習慣を身につけます。

○中学校：

- ・規則正しい生活習慣を確立し、体力をつけようとする力を育みます。

## ○小学校

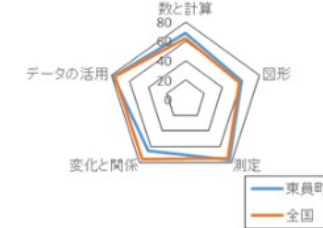
### 【全体的な傾向と課題について】

4領域で全国平均正答率を上回っている。「変化と関係」における“速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求める問題”では、正答率53.2%と課題が見られる。

### ★指導のポイント★

- ・速さ、道のり、時間について数量の関係を捉えることができるようになる学習

算数  
小学校



## ○中学校

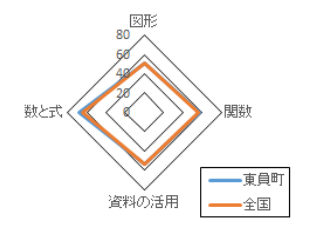
### 【全体的な傾向と課題について】

4領域ともに全国平均正答率とほぼ同じ正答率である。「数学的に説明する・数学的な表現を用いて説明する」問題では、正答率が全国より5ポイント低く、無回答率は5ポイント高いことが課題である。

### ★指導のポイント★

- ・数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決する学習。

数学  
中学校



レーダーチャート図の見方：各教科で学習指導要領に示されている領域の正答率をグラフ化したものです。それぞれの領域の正答率が高いほど、グラフの形はバランス良く大きくなる傾向にあります。